

## 体育部会

### <県研究主題>

児童一人ひとりが心と体を一体としてとらえ、生涯にわたって自らの健康・体力づくりを考えて行動する資質や能力の基礎を培う学習活動と評価の工夫改善

### 提案1

提案者 大沢 照司（横須賀地区）

### <研究主題>

思考力・判断力の育成を目指した学習指導と評価の工夫  
～健康的な生活行動に向かって～

## 1 提案内容

『第6学年 保健 ～健康生活で ドリームカムトゥーループプロジェクト～（病気の予防）』

本単元では、学習したことを子どもが自分の問題としてとらえ、自分の生活に当てはめて考えられるように計画した。また、夢の実現を目指して、健康的な生活行動へ主体的に向かっていけるように、生活習慣への取り組みを単元の中心に置き、「健康生活で ドリームカムトゥーループプロジェクト」として取り組んだ。

### （1）系統性を踏まえ、子どもの学びをつなぐ

小・中学校の学びの系統性を踏まえ、そのつながりの中で6年生の児童に身に付けさせる力を明確にする。これにより、評価規準や児童の具体的な目指す姿が明らかになり、効果的な指導評価計画とその実践が可能になる。

### （2）単元計画の工夫

生活習慣への取り組みを単元の中心に置き、単元全体を通して思考力・判断力を育てる単元指導評価計画を立てる。思考・判断のもととなる知識をしっかりと身に付け、習得した知識を活用することができるように計画していく。

### （3）学習活動の工夫

知識を活用する学習活動を学習内容に応じて積極的に取り入れ、児童の思考力・判断力を育成し、その過程や結果の表出を図る。

### （4）学習カードの工夫

思考・判断のもととなる知識の理解とその定着を図るとともに、学んだ知識を活かし、思考力・判断力をはたらかせた過程や結果を、話したり書いたりできるようにする。

### （5）発問の工夫

経験を引き出し、関心や意欲を高めるとともに科学的知識や思考力・判断力につなげたり、科学的な理解や活用力および正しい意思決定や行動選択に向かう力を育成したりする。

### （6）掲示の工夫

授業で使用した教材や学習のまとめを教室に掲示し、学習したことをいつでも確かめたり、活用したりできるようにする。

## 2 協議内容

- (1) 小・中の連携について…中学校の女子には痩せる願望があったり、携帯電話とのかかわりがあったりするが、小学校ではどのように考えているか。
  - ・中学校の先生と日ごろから連絡を取り合い、生活指導の部分から声をかけている。健康な生活を送るためには、きちんと食事をとることが必要であることを伝えている。
  - ・携帯については、とくに保健学習では取り組んでいないが、その扱い方については様々な場面で健康な生活ともかかわりながら触れている。
- (2) 保健学習では、思考力、判断力を育てるための思考・判断の学習というよりも、知識・理解を深めるための思考・判断と考えているが、どうとらえているか。
  - ・子どもが自分で使える知識にするために、思考・判断を中心にした取り組みとした。
- (3) 協議の柱に即した協議

「新学習指導要領に沿った年間指導計画・評価計画の作成」について（討議報告）

- ・年間計画の振り返りをしていくことが難しい。
- ・新体力テストをいつやるか、実施した結果をどう生かしていくか。
- ・ニュースポーツの取り入れをどう扱っていくか。
- ・学校行事と地域とのかかわりから年間計画を作成していく難しさがある。
- ・体づくり運動をどのように組み入れていくか。
- ・2学年での指導をきちんと考えていく必要がある。
- ・観点ごとの評価の在り方を、明確にしていく。
- ・学校全体として、保健学習にかかわらず取り組みを発信していく。
- ・保健学習が、評価のための学習となっていないか注意していく必要がある。
- ・生活に生かしていく活動を展開するには、総合的な学習などと関連していくとよい。

## 3 指導助言

- ・保健学習が、保健指導となっていないか。体育実技をどうしても重視してはいないか。雨降り保健では、学習のつながりがない指導となってしまう。年間活動計画の中にしっかりと位置付けていく必要がある。また、小・中・高の系統性、指導と評価の一体化ができる評価規準の設定も大切となってくる。
- ・アセスメントをしてから授業に向かうことが大切。子どもの実態把握から、指導の工夫をしていく。
- ・掲示物の工夫の中に、知識だけでなく考え方も書かれている。これも子どもの実態に合った指導の工夫となっていてよかった。
- ・ヘルスプロモーションの考え方が根底にあり、この趣旨を踏まえたうえで中学校の指導につながる学習展開ができていた。よって、子どもたちがセルフケアをすることができるようになっていった。
- ・行動変容の手続きとして、結果ではなくその過程、何をすべきなのかを考え行動すること、このことをしっかりと身に付けられるようになっていた。

## 〈研究主題〉

児童一人ひとりが課題をもち、主体的に取り組むための指導の工夫  
—仲間とのかかわり合いを大切にしたい授業をめざして—

## 1 提案内容

## 「第5学年 ボール運動 タグラグビー」

タグラグビーは既習のスポーツ経験に左右されにくく、運動が苦手な児童でも取り組みやすい種目である。タグラグビーの特性を生かすことで児童が運動の楽しさや喜びに触れ、技能を身に付け、意欲的に取り組むことにつながると考える。タグラグビーを通してお互いの考えを伝え合い、仲間とのかかわり合いを大切にすることで、児童が自ら考え主体的に取り組むことができると考える。

## (1) ルールの明確化

攻守それぞれのルールに分け、常にボールが見える位置でプレーするよう意識させた。ルールの明確化により児童がレフリーを行うことができた。それにより試合を同時に複数組むことができ運動量の確保につながった。

## (2) 学習カードの活用

自分のめあてを意識させ、チーム全体で共有化した。作戦ボードを活用しチームの中での役割を意識させた。作戦を考える中で、主体的に考えや思いを表現するようになった。攻め方は教師側からいくつか提示した。

## (3) 教材の工夫

単元の導入でタグラグビーの学習ビデオを観て、戦術を工夫する試合のイメージを共有した。また、自分たちの試合をビデオで振り返ることで、ボールの流れ、プレーヤーの動きの良いところ、工夫できるところを話し合うことができた。

## (4) 言葉がけの工夫

試合間の作戦タイムや振り返りの時間だけでなく、試合中のボールが動いている場面での言葉がけを意識させた。回を重ねるとアドバイス以外に、ダミーパスのかけ声も交じってきた。

## 2 協議内容(協議の柱「言語活動の充実について」)

## (1) 児童への言葉がけについて

- ・役割を明確にする上では、プレーが止まっている児童への言葉がけが大事である。
- ・ビデオを見る時には「チームの特徴を見つけよう」などの何を見せたいのかを教師が持っておくことが大事である。
- ・児童が作戦を考えるのは難しい。ゲームをやってきた中で自分たちのチームはこれが得意だというのがでてくる。それを上手く取り上げることで作戦になるのではないか。

## (2) 学習カードについて

- ・仲間とかかわり合いを大切にするための具体的な取り組みとして、触球数を学習カードに書くなどしていたが、個人ではなくグループの学習カードに書かせた方が話し合いにつながりやすいのではないか。

## (3) 「主体的」について

- ・「主体的」な行動は指導要領では高校生段階だが、小学生に求めても良いだろうか。
- ・「主体的」とは、用具の準備を積極的に行う姿や話し合い活動を活発に行っている姿を指して使っていた。

#### (4) 言語活動の充実について

- ・言葉がけが大事である。動きに関する言葉がけを行う、見本となるモデルを示す、言いつ放しで終わるのではなく受け取る側がしっかり受け止めるようにさせる、作戦を立てる上でのポイントを示すなど教師側の手立ても大事である。
- ・運動量の確保も考えなければいけない。バランスが重要である。
- ・児童が必要だと感じる事が言語活動の充実につながる。条件や課題を教師側が上手く設定していく必要がある。
- ・言語活動を充実させるために話し合うのではなく、体育科の目標・課題を達成するための手段として話し合いを取り入れていかなければならない。

### 3 指導助言

#### (1) 体育の授業で大切にしたいこと

- ・ねらいがあって、それをどうやって達成するかまず考えること。さらに運動の特性に触れさせ、楽しさを感じさせること。運動量をできるだけ確保してあげること。めあてを達成したときの喜びを感じさせること。
- ・児童の実態を分析すること。そこから何を身に付けさせたいのか考えていきたい。

#### (2) 教師の手立てについて

- ・学習カードをできるだけ簡単にすること。児童が資料をすぐに使える環境にすること。
- ・チーム編成の仕方、審判の作り方を特に配慮したい。
- ・言葉がけを大切にしたい。負けたチームへの言葉がけも忘れずに考えておきたい。
- ・児童の変容を敏感に感じ取る必要がある。児童から出た言葉を上手に取り上げたい。

#### (3) タグラグビーについて

- ・児童になぜタグラグビーを行うのかを伝えることが大切だ。
- ・一般的ではない運動なので、始めにビデオを見せたのは良かったと感じた。

#### (4) 新学習指導要領について

- ・体育の授業時間数が増えている。この意味を重く捉えて、児童が体育は楽しいと感じられるようにしたい。

### ○まとめ

#### (1) 単元計画立案上の留意事項

- ・2学年のまとめりとして計画すること。また、6年間の中の2年間という意識を持つこと。

#### (2) 指導上の留意事項

- ・学習指導要領改訂の趣旨に則った指導計画や授業づくりをお願いしたい。

#### (3) 国からの伝達事項

- ・授業時間数が増えている意味を重く考えてほしい。
- ・体育は休み時間とは違う。ねらいを持って教えていることを再確認したい。
- ・体育を嫌いにさせないように。もっとやりたい、楽しいと感じられるように。
- ・課題解決のために児童の試行錯誤を保証すること。そのための支援が教師の仕事である。
- ・授業時数をしっかり確保してほしい。特に表現の単元を運動会練習などにあてていないだろうか。また、雨が降りやすい時期にまとめて保健の授業を計画するのは雨降り保健ではない。雨が降ったから実技を保健に変えるのは、保健嫌いになる可能性がある。ぜひ計画的に設定してほしい。